

第一回 M&Aフォーラム賞が決定

M&Aフォーラム賞『RECOF賞』などに四作品

三三作品が応募

M&Aフォーラム賞選考委員会が、二〇〇六年度（平成一八年度）「第一回M&Aフォーラム賞」として別表の四作品を選定し、七月五日表彰式が行

われた。

「M&Aフォーラム」は、内閣府経済社会総合研究所の「M&A研究会」による中間報告における提起を受けて二〇〇五年一二月に設立された民間団体。フォーラムでは、理論的、実証的

門家、企業関係者及び政府関係者等が学際的に参加する場となっている。

M&Aフォーラム賞は、二〇〇〇年度に「M&Aに関する社会科学的観点からの研究論文の執筆で顕著な業績をあげた学生・院生を顕彰する懸賞論文制度」としてレコフが創設した「RECOF賞」が前身で、〇五年度まで六回にわたって実施されてきたが、「M&Aフォーラム」からの強い要請もあり、新たにM&Aフォーラム賞『RECOF賞』として引き継がれることになった。

これについてレコフの吉田代表は、「欧米に比べて、やや遅れていた市場経済がようやくわが国にも定着してきました。政府も関係法令の整備や改革を急いでおります。こういった時期に、すでに社会人としてM&Aを研究している多くの研究者、あるいは、先生方に門戸を開放し、若手学者の登竜門になるような賞に発展させていただきたい」と語っている。

M&Aに関して、学識経験者から学生にいたる幅広い分野を対象を広げて新たにスタートした「M&Aフォーラム賞」は、昨年四月から本年三月までに執筆された書籍、論文、または経済

専門誌、総合雑誌、各種機関誌に掲載された論文が対象とされた。学識経験者から一一作品、法律・会計事務所が三団体・四作品、シンクタンク・コンサルタントが三人・四作品、実業界、経済誌編集記者からそれぞれ一作品、さらに社会人大学生を含めた学生から一二作品の、合わせて三三作品の応募があり、選考委員長の香西泰氏（経済評論家）のもと、大杉謙一・中央大学法科大学院教授、富山和彦・経営共創基盤代表取締役CEO、西山茂・早稲田大学ビジネススクール教授、深尾京司・一橋大学経済研究所教授、吉田允昭・レコフ代表の五人の委員によって選考が行われた。今回の選考経過について、香西委員長はこう語る。

「審査にあたりましては、①作品が独創性に富んでいること、②理論的・実証的な分析を行っているもの、③実用性・実務への応用性が高いこと、④問題点を先取りし、その解決の糸口を論じているもの、⑤M&Aの啓蒙に資するもので、業界全体への影響力が高いと判断されるもの、等を選考基準といたしました。とりわけ今回は、M&A活動の諸問題に真正面から取り組んでおり、啓蒙力の高い点を重視いたし



左から杉浦慶一氏、井上光太郎氏、落合誠一・M&Aフォーラム会長、香西泰・選考委員長、下村正樹氏

及び実務的な視点から、進歩、変化するM&A事情の研究・調査を行い、今後のわが国におけるM&Aのあり方についての提言を行うとともに、主に企業人を対象にした「M&A人材育成塾」の運営等の活動を通じて、M&Aの普及・啓発、人材や市場の育成に資することを狙いとしている。わが国のM&Aの発展と普及を促進するために、法律、経済、経営、会計等の様々な関係分野の有識者、弁護士・公認会計士・税理士等の実務専

《受賞作品》

M&Aフォーラム賞	作品	作者
正賞 「RECOF賞」	「M&Aと株価」	井上 光太郎 加藤 英明 (共著) 慶應義塾大学大学院 名古屋大学大学院 経営管理研究科 准教授 経済学研究科 教授
奨励賞 「RECOF奨励賞」	「公開買付規制における 対象会社株主の保護」	飯田 秀総 東京大学 商法・助手
	「対中投資に関する 法的問題 ～M&Aによる中国進出の Best Practice追求～」	下村 正樹 物産オートモーティブ・インディア株式会社 代表取締役社長 兼 群馬大学客員教授
選考委員特別賞 「RECOF特別賞」	「日本のバイアウトに 関する実証分析」	杉浦 慶一 株式会社日本バイアウト研究所 代表取締役 東洋大学経営学部講師

ました。その結果、選考委員六人の満場一致により、正賞を井上光太郎氏、加藤英明氏共著の『M&Aと株価』に、奨励賞を飯田秀総氏の『公開買付規制における対象会社株主の保護』と、下村正樹氏の『対中投資に関する法的問題』の二篇に決定いたしました。また、当初の募集規定では、表彰作品をM&Aフォーラム賞正賞一篇、M&Aフ

ォーラム奨励賞二篇としておりましたが、社会人大学を含む学生さんからの作品で、これに準じた優秀な作品があれば別途、賞を設けようということになり、杉浦慶一君の『日本のバイアウトに関する実証分析』を特別賞といたしました」

このM&Aフォーラム賞について、落合誠一・M&Aフォーラム会長（中央大学法科大学院教授、東京大学名誉教授）は、

「本フォーラムでは、わが国企業のM&A活動を理論的、実証的及び実務的な視点から総合的に評価し、さらに進歩、変化するM&A事情の研究・調査を行い、今後のわが国におけるM&Aのあり方についての提言を行います。『M&Aフォーラム賞』も、M&A活動が、わが国経済の持続的成長、あるいは産業・企業の成長・発展に寄与するという大前提に立ち、わが国におけるM&A活動の普及・啓発を図り、あわせてM&Aに精通した人材を育成することを目的としております。今後も本フォーラムの活動の趣旨をご理解賜わり、関心を持つ多くの方々のご参加を希望いたします」と、期待を語っている。

受賞の言葉

◆井上光太郎氏

慶應義塾大学 大学院経営管理研究科准教授
この度は拙著「M&Aと株価」が、栄えある第一回のM&Aフォーラム賞（正賞）を受賞することになり、大変光栄に思っております。本書は、M&Aという企業行動を株価に基づいて包括的に分析し、評価することを試みています。株価の持つ情報を活かすことで、企業経営にプラスの貢献があるだろうというのが筆者のスタンスです。しかし、「企業価値」という概念は企業経営の現場やマスコミで重視されるようになりましたが、企業価値を反映しているはずの「株価」による企業行動の評価は、まだまだ日本では正當な評価を得ていないように感じています。その意味で、本書を高く評価して下さいました。審査委員の先生方に厚くお礼申し上げます。

◆飯田秀総氏 東京大学 商法・助手

M&Aフォーラム賞奨励賞を頂くことができて、大変嬉しく思います。このような賞を受賞できましたのは、本論文の執筆に当たった的確なアドバイスをしていただいた諸先生方のご指導のおかげです。心からお礼を申し上げる次第でございます。また、本賞の受賞は、喜びであると同時に、今後、さらに研究を進展させていかなければならないと身を引き締めております。今後とも皆様からのご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

◆下村正樹氏

物産オートモーティブ・インディア株式会社
代表取締役社長 兼 群馬大学客員教授
一九八七年に中国に留学して以来、自らの体験として中国の「変化」を感じており、今回二

〇年間の集大成として、M&Aを切り口にしてその「変化」を「対中投資に関する法的問題」として取り纏めることができました。しかし、論文完成後も、外国企業中国進出のドライバーとなってきた外資企業向け「優遇税制」の段階的廃止、物権法の制定等、さまざまな勢いで対中投資環境は変化しており、引き続き研究を進め、その時代に応じたCrossborder M&Aを行う上でのBest Practicesを追求していく所存です。また、実務家研究者として、学問上の論点をベイスとしつつも、M&Aの実務で障害となる法的問題に焦点を当てて、学問と実務が有機的に交錯するように、今後も研究を進めていきたいと思ひます。

◆杉浦慶一氏

株式会社日本バイアウト研究所代表取締役
東洋大学経営学部講師
近年、日本のM&A市場が急成長を遂げていますが、従来からの事業会社による戦略的なM&A (mergers & acquisitions) に加え、バイアウト・ファンド等の投資会社や経営陣が買収主体となるバイアウト (buy-outs) の手法も存在感を増しており、企業競争力を高める手法として注目されています。本論文では、案件のタイプ、トップ・マネジメントの就任方法、ファンドの投資回収の方法などに焦点をあてて、日本のバイアウト市場の実態の解明に努めました。また、バイアウト・ファンド等の投資会社と投資先企業の双方に実施致しましたアンケート調査の結果も詳細に分析し、当事者の意識の把握にもチャレンジ致しました。調査にご協力頂きました皆様には心より御礼申し上げます。今後も日本のバイアウト市場の発展に少しでも貢献できるよう調査・研究を続けていき、学会報告や論文発表を通じて研究成果を公表していきたいと思ひます。